

**事後評価報告書**  
**(日本-タイ研究交流)**

1. **研究課題名:** 「持続的農作物生産に向けての次世代技術開発:ファージによる青枯病  
コントロール」

2. **研究代表者名:**

日本側: 広島大学大学院 先端物質科学研究科 教授 山田 隆

相手側: NSTDA, National Center for Genetic Engineering and Biotechnology,  
Agricultural Biotechnology Unit, Plant Research Laboratory, Senior Researcher,  
CHATCHAWANKANPHANICH, Orawan

3. **総合評価:** A

4. **事後評価結果**

**(1)研究成果の評価について**

有用資源確保の観点から新規ジャンボファージを含む60種あまりのファージの分離・系統解析や、宿主との相互作用解析による青枯れ病予防に使える可能性のあるファージのリソースを整備したことは高く評価できる。また、両者の相乗効果により、日本-タイ研究グループの共著論文4報が国際誌に受理されており、十分な成果であると言える。

一方、研究期間中はリソース整備に終始しており、トマト・唐辛子・生姜といった農作物を対象にした持続的農業の制御技術を確立するという観点では、まだ改善の余地があると考え。青枯れ病に効果を示すファージや新規性の高いジャンボファージは、新規性や進歩性を検証し、特許出願も考慮できたのではないだろうか。

**(2)交流活動の評価について**

日本及びタイでのワークショップの開催で継続的な研究交流ならびに人的交流が行われていたと判断できる。結果として、日本側のバクテリオファージを用いる青枯れ病診断・防除等の技術がタイで利用され、ファージ資源の開発や解析ができており、また相互の適切な協力関係を通して、現地での利用の道筋が開けていることは高く評価できる。

しかしながら、研究者コミュニティ拡大の観点が弱く、また、タイ側の参加者に学生が少なかったことから、人材育成や教育の点での貢献が十分でないような印象を受けた。

**(3)その他**

詳細が十分に把握できるよう、報告書の記載を工夫して欲しかった。